

藝大通信

No.08

TOKYO GEIDAI
東京芸術大学広報誌



「転位95 - 地 - 」
etching lithograph 二版刷 44×34.5cm 1995年

中林忠良 (なかばやし・ただよし)

1937年東京生まれ。
1963年東京芸術大学絵画科油画専攻卒業。65年同大学院修了。78年版画研究室講師、81年助教授、89年から教授。99年4月から評議員。2003年紫綬褒章受章。
「転位」シリーズは、白と黒の拮抗と調和がテーマ。日常に潜む浮遊感を支点とし、自身の足元を握りおこす試みがなされている。作品はやがて、地の生と死の深さに囚えられ、それが描くこと(黒)描かないこと(白)という制作のしくみとからみ合せて、白と黒の世界に収斂した。

東京芸術大学広報誌 藝大通信第8号

編集発行 東京芸術大学広報委員会

編集委員 野田暉行 (副学長・音楽学部作曲科教授)

長谷部浩 (美術学部先端芸術表現科助教授)

渡邊健二 (音楽学部器楽科助教授)

太田和良幸 (事務局長)

アートディレクター 蓮見智幸 (美術学部デザイン科助教授)

制作 株式会社 G凡社

発行日 平成16年3月20日

お問い合わせ先

東京芸術大学総務課

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

電話 03-5685-7509 FAX03-5685-7760

e-mail jkikaku@off.geidai.ac.jp URL http://www.geidai.ac.jp

第8号目次

3 11 **特集 芸大の新しい発信基地、取手。**

4 7 **【座談会】改革の拠点として、
取手校地の12年とその未来像をさぐる**
飯野一朗 / 渡辺好明 / 小山穂太郎 / 西岡龍彦

8 9 **学科紹介 先端芸術表現科 藤幡正樹
音楽環境創造科 熊倉純子**

10 11 **取手キャンパスを歩く 案内人・田中一幸**

12 13 **NEWS 2003.11~2004.2
何が変わるのか「大学法人化」**

14 15 **タイムカプセルに乗った芸大
【第8回】1971~1980年**
佐藤道信 東京芸術大学美術学部1970年
瀧井敬子 東京芸術大学音楽学部1977年

16 17 **開かれた大学
学生オーケストラ
海外へ地方へ、活躍の場が広がる 有賀誠門**

18 19 **学生のいる風景
国際交流会館
都心から離れた留学生の拠点 趙 洗淵**

20 23 **芸大短信2004.4~2005.3**

20 21 **春から夏への大学美術館
再考:近代日本の絵画 美意識の形成とその展開**

22 23 **春から夏への奏楽堂
藝大ドヴォルザーク・プロジェクト**

第8号刊行にあたって

芸大は歴史的な上野公園内のほかに、取手市の利根川のほとりにもキャンパスを展開しています。新しい校地で芸大は何を成すべきか、未来に向けての検討が重ねられるなか、先陣として美術学部による授業が開始されたのはもう12年も前になります。施設や交通のまだ整備されていない初期の開拓期に、孤軍奮闘、並々ならぬ苦労と努力を重ね未来を切り開いたパイオニアたちを改めて労いたいと思います。それは現在への大きな可能性に繋がり、新しい時代へ向けた「先端芸術表現科」の開設となりました。それに続き、近年「音楽環境創造科」も開設されました。共通工房としての役割とともに、取手校地の意義は年々新たに深められ、また問われ続けております。

今回は、この取手キャンパスの未来へ向けての展望と現実の問題点等を現場の先生方が語るとともに、取手校地の紹介をいたします。

上野とはまたひと味違った取手にぜひ一度足をお運びいただきたいと思います。

さて、この芸大通信も8号を迎えました。いよいよ法人化の年を迎えますが、この小誌もこれを一つの節目と捉え、来年度から新しい企画と方針で出発する予定です。

ご愛読に感謝するとともに、ますますご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

藝大通信編集委員長
副学長(企画担当)
野田暉行